

教育委員会会議録

令和6年（2024年）第8回臨時教育委員会会議

開 会 日	令和6年（2024年）7月23日（火）	
開 会 時 間	午前9時00分 ～ 11時00分	
開 会 場 所	教育センター 4階 大研修室	
出 席 者	委員会	遠藤洋路 教育長 小屋松徹彦 委員 西山忠男 委員 澤栄美 委員 村田 慎 委員
	事務局	須佐美徹 教育次長 福田衣都子 学校教育部長 他
協 議	令和7年度（2025年度）使用中学校教科用図書の採択について （歴史）	
署 名	西山忠男	
	遠藤洋路	
会議録作成者	教育センター 村上公英	

令和6年（2024年）第8回臨時教育委員会会議【7月23日（火）】

〔開会の宣告〕 遠藤洋路 教育長	令和6年第8回臨時教育委員会会議を開会いたします。
〔会議の成立〕 遠藤洋路 教育長	本日は、私のほか4人の委員が出席しておりますので、この会議は成立しております。
	会議規則第14条 第2項の規定に基づき、会議録署名人の指名を行います。会議録署名人は、西山委員と遠藤とします。
日程第1 協議	
・協議1 令和7年（2025年度）使用中学校教科用図書採択について（歴史）	
遠藤洋路 教育長	それでは、協議1 令和7年度（2025年度）使用中学校教科用図書の採
榎木敏之 副所長	択について事務局より説明をお願いします。
伊藤友子 選定委員 長	協議1について説明します。令和7年度から中学校で使用する教科書全16種目の採択をお願いします。本日は、そのうちの「歴史」1種目についてご協議をお願いします。
	まずは、熊本市教科用図書選定委員長から報告をさせていただきます。
	まず、「歴史」の教科書の調査結果について、研究員記録員が説明いたします。
伊藤友子 選定委員 長	《平川純哉 研究記録員説明》
	次に教科書展示会の意見集約の結果報告を事務局が説明いたします。
伊藤友子 選定委員 長	《榎木敏之 副所長 説明》
西山忠男 委員	ただいまの報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。
	本市の生徒の特徴として、進んで調べるとか、出来事を関連づけて考える

とか、社会の出来事をいろんな視点から見るとというのが全国よりも低いという結果が出ました。この点から見ても、記述はできるだけ中立な記述で、それをいろんな角度から見るができるような教科書が望ましいと思います。

また、教育委員会の使命として、教育行政における政治的中立を確保することがございますので、その観点から見てもあまり中立的ではないと思われる教科書が4点ほどありましたので、それについて、まず意見を述べたいと思います。

まず、自由社と育鵬社ですけれども、これは新しい歴史教科書をつくる会から始まった流れで、自虐史観に基づく歴史教科書を正すという目的でつくられたものと思っております。

特に自由社のほうは、日本賛美の記述が非常に多くて、天皇礼賛の記事もありますし、特に日本憲法の記述のところ、ご紹介がありましたように、GHQによる押しつけという書き方になっていて、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の3原則の記述がございません。加えて、憲法改正の記事が2か所に載っているなど、GHQから押しつけられたんだから改正しなきゃいけないというような流れをつくろうとしているかのように受け止められる部分もございます。そういう意味で、ちょっと中立から外れていると考えられるので、もうこれは選択すべきでないと思います。

育鵬社も自由社ほどひどくはないんですけど、天皇礼賛の記事があったり、熊本関連でいうと徳富蘇峰の記事がありまして、241頁ですけれども、見てみたいと思いますけど、徳富蘇峰は、「終戦後日記」で次のように記しています。「自分は戦争犯罪とか、戦争責任とかいう言葉が、今日通用することについて、いささか不審がある」というようなことが紹介されているんですけども、徳富蘇峰は、日清戦争時に朝鮮出兵論を唱えたり、満州事変以降、ナショナリズムと皇室中心思想で戦争協力をしてきた強力なジャーナリストだったわけですね。そういう意味で戦後、非常に強く批判されたわけですけども、そういう人をあえて取り上げているというようなところなど、かなり中立からずれていると判断される部分がございます。

また、令和書籍は、これは執筆者がたった2人しかなくて、うち1人は元皇族の方であって、個人の思い入れの強い教科書になっています。特に天皇家に関する記述が非常に詳しくて、象徴天皇制の現代においてふさわしい教科書とは思えませんし、454頁には、さきの大戦では自らの命を投げ出して祖国日本を守ろうとした若い兵士たちもいましたというふうな戦争賛美の記述もあるなど、ちょっとふさわしくないと考えます。

一方、学び舎のほうは、恐らくこの自由社や育鵬社の教科書に対抗すべくつくられたのではないかとと思われるような教科書のつくりになっていて、パレスチナ問題に詳しいなど非常にすばらしい記事もあるんですけども、ややちょっと左寄りではないかなと判断されるので、以上4社の教科書は政

	治的中立から外れていると判断し、採択しないほうがいいのではないかと私は考えます。
澤栄美 委員	まず、質問からなんですけど、まずは膨大な資料を作っていただいてありがとうございました。とても参考になりました。学びの進め方のところで質問をまず2点と、それから、私が感じたことを述べたいと思います。 まず、小学校の復習から入るという教科書が、東書と帝国書院だったと思いますけれども、これはやはり小学校での学びを最初に持ってくるということは重要な導入の流れの一つなのかということをお伺いしたいのが一つ、それから、日文のまとめのところで少し紹介されましたけど、153頁に「ポートフォリオに、学習を始める前と比べて、考えが変わったことや新たに」というような文言があるんですけども、このポートフォリオというのはどういうふうに準備されている前提なのかということをお伺いしたいと思います。
遠藤洋路 教育長	では、研究員からお願いします。
猪原英滋 研究員代表	それでは、失礼します。研究員の代表として回答したいと思います。 1点目の小学校の学びを導入にするという点については、観点1のところでは学習指導要領に基づいて考えておりますが、小学校との関連が教科書によって図とか表で、子供たちがそれまでに既習してきたことを想起させて、中学校の学習はこういう学びになるよというような、そういう関連づけで、発達段階に応じた子供たちの学習の学びをつなぐという意味で大変大きな意義があるかなと考えております。
平川純哉 研究記録員	では、補足いたします。 小学校と中学校の歴史がどう違うかという、今ご説明にもありましたけれども、小学校の場合は、その時期の人物とか文化遺産を中心にある、言うなれば点での学習、中学校はそれを線で結んでいく学習、通史を学んでいくという、それから時代を捉えるというような、その大きな違いがございます。やっぱり線で学習するときの前提として、まず小学校で何を学習したかということをもう一度確認するということは、学習上有効なことではないかと考えております。 もう一点、ポートフォリオですけれども、こちら、日本文教出版が使っているポートフォリオというのは、章のワークシートをワードの形式でも、PDFとワードと入っております、ワードの形式でタブレットから開けば、タブレットに直接記述ができると、そして保存ができるということで、章の初めにも少し最初のところを書いておいて、最後のところでもう一回それを見て、少し修正したり、付け加えたりするということができるというもの、

澤栄美 委員	そういう積み重ねができるということで、ポートフォリオという名づけをして学習に有効に使ってもらおうとしているところではないかと考えます。よろしゅうございますか。 それは必ずずっと使っていくような形になって、ポートフォリオですから、積み重ねになっていくという仕組みになっているということで理解してよろしいですか。
平川純哉 研究記録員	保存はできるんですけども、一つのものにまとめていく場合は、その単独、アプリそのものだけではちょっと難しいようで、恐らく例えば別の保存のツール、ロイロノートとか、そちらのほうに落としていって、そちらに残していくと、それは一つの大きなまとめといいますか、全体のまとめが出来るのではないかと考えます。中学校の先生方もそれぐらいの活用方法は、子供も先生もできるのではないかと考えます。
澤栄美 委員	そういった意味では、東京書籍のまとめのところ、140頁から、くらげチャートとか、あるいはフィッシュボーンとかの思考ツールを用いて振り返るところで、これは協働的に学んで深めるという意味では非常にいいような気がするんですけども、この思考ツールは、もともと基本的に熊本市の場合はロイロノートの中に入っているんで、こちらのほうがまたちょっと使いやすい感じがするのかなという感想も持ちました。 それともう一つ、最後に導入に関してなんですけれども、やはり子供たちがつまらない、必要ないというような感じで必要感を感じてないというところで課題設定というのは非常に重要だろうと思うんですけども、いろんな教科書で課題設定がここにこういうふうに書いてありますというふうな説明があった中で、日本文教出版の104頁と105頁のところが絵で室町時代の建物の様子と江戸時代の建物の様子で、子供たちが気づくという設定が何か面白いかなと思ったんですよね。最初から課題が教科書で設定されているのに比べて、この比較して、視覚で考えて、その後に年表を見ていくという、その流れは非常に推奨できるかなというふうに私は感想を持ちました。 以上です。
小屋松徹彦 委員	私もこの社会のほうは、子供たちが入りやすい教科書はどれかなという観点と、それからあとはもう定着ですよ、深い学びがどうなんだろうということで見させてもらって、やっぱり最終的に東京書籍と日本文教出版ですかね、この2つがいいなと思って見てたんですけども、今ちょっと澤委員も触れられましたけども、まず学習の見通しを立てるという部分でいきますと、日文のこの入り方、これが非常に丁寧に入っていけるなということで、私はこちらが一番いいかなと思って見させていただきました。

	ただ、最後のほうの今度はまとめの深い学びに入る部分のほうでいきますと、振り返り、まとめですよね、こちらのほうはやはり東書のほうがいいなと思って見てました。それと、ご説明でもありましたように、このまとめを見たときに頁数が振ってあるので、また前のほうに戻っていけるという点で、日文よりも東書のほうが少しそこはよかったなというふうに見させていただきました。 以上です。
村田 慎 委員	私は、戦時下の情報統制のところを各社見させていただいて比較をしたんですけれども、ご準備いただきました資料にも詳しく載せていただいておりますけれども、各教科書、戦争中の報道の規制についてというところは書かれていて、はっきりと規制、統制されていたというふうに明記しているところもあれば、そうでないところもありますけれども、日本文教出版の253頁に戦争の体験者から若者へのメッセージという形で、どれだけ知らされずにいたかというのを体験者の方の言葉で書いてあって、より現実的にしっかり伝わってくるなというふうに思いました。本文に載っていないでも当時を体験した人、知っている人のメッセージだからこそ学べることというのは多いんじゃないかなというふうに感じています。
西山忠男 委員	東書と日本文教出版はどちらもいい教科書なんですけど、本県では、非常に重要な事件として島原・天草一揆というのがあって、キリスト教の伝来との関係が非常に歴史的に重要な事件なんですけど、その辺の記述を見ますと、島原・天草一揆は1637年ですよね。秀吉がバテレン追放令を出したのが1587年です。かなりの時間間隔がある。50年近くあるわけですね。 その間、どうしてキリシタンがいたのと子供たちは不思議に思うに違いありませんが、そのあたりの記述は東書が非常に詳しくて、107頁の宣教師の追放というところで、秀吉は、長崎がイエズス会に寄進されていることを知ると、日本は神国であるとして宣教師の国外追放を命じましと、しかし、一部の宣教師は日本にとどまり、キリスト教と強く結びついていた南蛮貿易も禁止されなかったため、政策が不徹底でしたという、こういう説明があるんですね。それで背景がよく分かると、そして、115頁になると、114頁に書いてありますね。家康が1612年にキリスト教を改めて禁止した、禁教令を出したということがあって、1635年に出島を築いて、それ以外には交流ができないようにした。そして1637年という流れが非常によく分かるように書いてあります。 ところが、日本文教出版はその辺の記述が非常に少なく、秀吉によるバテレン追放令の記述を探しましたが、見当たらず、島原・天草一揆はありますけれども、非常にそのあたりの流れが分かりにくい。そういう意味で、この辺の記述を見ると東京書籍が優れてるかなと私は思いました。

遠藤洋路 教育長

ほかにかがででしょうか。

じゃ、私からもコメントなんですけど、東京書籍、私もいいなと思います。例えばこの二度の世界大戦と日本というところで比べると、例えば東京書籍だと203頁ですかね。202頁、203頁が最初、第6章というところの最初で、ここで第6章で探究する問いはというので、日本はどのようにして戦争に突入していったのでしょうかというふうになっていて、まとめが242頁にあって、探究課題を解決しよう、最後日本は、このようにして日本は戦争に突入し、戦争は終結しましたと、何か戦争に入ってから一瞬で終わっちゃうようなまとめなので、これってどうなのかなというふうには思うんですけど、その前の頁、240頁、241頁、この節ごとのまとめが非常にすばらしいんですよ。ほかの教科書はあまりこんなふうに丁寧にまとめていない。

例えば、日本文教出版とか帝国書院だと、今の章の問いに当たるものは、日本文教出版だと、日本はなぜ二度の世界大戦に参戦し、その結果どうなったのでしょうか。帝国書院も、二度の世界大戦を経験することによって社会はどのように変化したのだろうか。この問いは正直、東京書籍のどのように戦争に突入したのかというのだけよりも、その結果どうなったかという、結局歴史というのはそのために学ぶんでしょから、なぜ戦争が起こったのかだけじゃなくて、その戦争の結果どうなったのかということを探究することが大事だと思うので、問い自体は日本文教出版や帝国書院のほうが優れていると思うんですけど、実際のまとめる頁を見るとその問いに十分答えられるようなまとめ方にはなっていないのと、二度の世界大戦の結果どうなったのか、社会はどのように変化したのかというのはその後を見ないと分からないわけですね。でも、戦争が終わった瞬間までの章で、それがその次の章まで、敗戦後とか終戦後の日本と世界がどうなったかというのが分からないと、その問いには答えられないんですよ。なので、問い自体は本当にすばらしい問いなんですけども、この第6章の問いとしては、そこだけで答えられない問いになってるので、これはちょっとどうなんだろうなというふうに思います。

だから、理念としては日本文教出版や帝国書院の問いのほうがすばらしいんだけど、実際の中身は東京書籍のほうが優れてるというふうに私は思います。その戦後の状況まで勉強した後で戦争の結果どうなったのかという問いが出てくるんだったら分かるけど、そうになってないので、答えられない問いを提示しても、どれだけいい問いでもしようがないと思いますので、その点でやっぱり東京書籍のほうがよく考えられた構成になっているのかなというふうに思いました。

あと、先ほどありました教科書展示会に十分な数の教科書を送ってこないような出版社というのは、そもそも採択してもらう気があるのかというふう

令和6年（2024年）第8回臨時教育委員会会議【7月23日（火）】

	に私は思いますので、論外ですね。そこは採択すべきでないというふうに思います。
村田 模 委員	すみません、ちょっとお尋ねなんですけれども、3の補充・発展のところが日文だけ◎になっているというのが、ほかとどう違ったのかというのを改めて聞かせていただいてもよろしいでしょうか。
猪原英滋 研究員代表	観点3の日文のところについては、二次元コードを使って子供たちが主体的に学ぶというところで、発展的な学びにもつながるというところで考えたときに、日本文教出版については非常に使いやすいというところではあります。二次元コードを読むと掲載箇所に飛んでいく、子供たちがそこから選びやすいという点です。ただ、丸がついているそのほかの教科書も、中には、例えば東書、そして帝国あたりを読むとメニュー、目次、数頁というか、節のところのメニューには飛ぶので、そこから選んでいくという手間が一手間かかるという点で、ちょっとその辺が日文のほうが一つ、その点大きく評価をしたというところで、そこで差異がついていると思います。○の中では東京書籍が次、そして帝国書院も非常にその辺は、メニュー画面へ飛ぶんですが、準備はされているというふうに思います。 以上です。
小屋松徹彦 委員	これは観点の幾つになるのかな、7になるのかなと思うんですけど、ちょっと一つ、今日本文教出版のほうの209頁と、それから東京書籍の135頁をちょっと見てみたんですけど、ここにエルトゥール号遭難事件というのが取り上げてあって、これはトルコのほうの遭難した方々を日本が助けたという事件だったんでしょうけど、もう一つ今度は、日本文教出版のほうは日本人を救ったトルコ航空機ということで、100年後の今度は逆に日本人が遭難をして、それをトルコが助けたという、こういった記事も併記してあって、ここまで書いてあると何かお互いに両国の関係性といいますか、非常にいいなというのが伝わってくるので、日本文教出版のこの取扱いはいいなと思いました。 以上です。
遠藤洋路 教育長	じゃ、ほかにご発言がありましたらお願いいたします。特にありませんか。 では、ほかにご発言がないようでしたら、社会の歴史的分野については以上といたします。
平川純哉 研究記録員	前回、地理の検討をしたときに、小学校のときの世界の学習、特にオセアニアはどうするか、どういう履修をしているかというところが、私が補足したところがありましたけれども、社会科の内容については先日お話ししたと

	おりなんですが、実は、社会科以外で外国語活動のほうでありましたので、それをちょっと補足しておきます。 6年生の外国語科に自分が行ってみたい国を紹介しようという単元がございまして、2学期に学習するところですけど、その中に一つの国としてオーストラリアが上がっております。これは子供たちが今使っている教科書ですけども、それで、校長先生が先日お話ししたように、エアーズロックとか、コアラとか、そういうところは子供たちの学習経験としてある程度持っている情報というところで、全然生活経験だけで持っているわけではないというところを補足させていただきます。申し訳ございません。お時間取らせました。 以上です。
遠藤洋路 教育長	はい、分かりました。 あと、昨日の協議のときに、数学でしたかね、教科書、ほかの自治体の採択状況ということが話題になったかと思いますが、その点はいかがですか。
平川純哉 研究記録員	失礼します。昨日の件について、政令市のほうで数学の採択の教科書がどうなっているかというのをちょっと調べたところです。始まる前にお渡ししました資料の紙の部分になりますけども、こういった状況でしたので。これが令和5年度、本年度使ってる教科書ということになります。 その右側に全国学習状況調査の質問調査、生徒用の結果を載せています。抽出で、子供たちが自ら考え、自ら行動するというような主体性の部分を①の項目で、それから、数学に関するもので数学が好きというものと数学の内容が分かるというものを全国学調の結果を国研のホームページのほうから整理しているところです。質問調査の質問事項のはっきりした全文の内容は表の一番下に書いているところです。 以上になります。
遠藤洋路 教育長	ありがとうございます。 自分で考え、自分で取り組んでいましたかとか、数学の勉強は好きですか、数学の授業の内容はよく分かりますかという回答と教科書は、これを見る限りは、あまり直接の関係はなさそうな気がしますが、全てにおいて熊本市が一番低いということだけは確かですね。
平川純哉 研究記録員	はい。改めて子供たちの実態、数値的な実態をちょっと再認識したところです。教科書に関しては、相関という意味では、この結果だけから見るとちょっと分かりにくいかなと思います。
遠藤教育長	数学が好きというのは熊本市が一番、20番目じゃなくて19番目です

令和6年（2024年）第8回臨時教育委員会会議【7月23日（火）】

〔閉会〕 遠藤洋路 教育長	ね。あとは20番目ですね。分かりました。やっぱりちょっと改善すべきところが、教科書ではないのかもしれませんが、あるんだなというふうに再認識したところです。 以上で、本日の会議日程は全て終了いたしました。他に何かご発言はございませんか。 他にないようでしたら、これで、令和6年第8回臨時教育委員会会議を閉会いたします。
--------------------------	---